

CSR 方針 2 環境

環境負荷軽減の重要性を理解し、積極的に環境保全・向上活動に取り組みます。

基本的な考え方

当社では、環境保全に対する姿勢を明確にする目的で「環境理念」を制定するとともに、その理念の具現化を進めていくために「環境安全活動方針」を策定しています。

環境理念

長谷川香料株式会社はかけがえのない地球を未来に引き継ぐことが人類共通の重要課題であることを認識し、総合香料メーカーとしての全ての事業活動において地球環境保全に配慮して行動します。

環境安全活動方針

当社では、「環境保全」と同様に、「保安防災」「労働安全衛生」「化学品安全」についても企業の重要なテーマとして「環境安全活動方針」に盛り込み、取り組みを行っています。

環境保全

1. 省エネルギーの推進
2. 省資源、廃棄物の有効利用の推進
3. 臭気対策、環境汚染物質の排出低減
4. 環境管理体制の充実
5. グリーン購入の推進

保安防災

1. 危険物安全対策の推進
2. 防災安全対策の推進

労働安全衛生

1. 労働安全対策の推進
2. 労働衛生活動の推進
3. 労働環境の改善

化学品安全

1. 化学物質管理体制の整備
2. 化学品安全対策の推進

ステークホルダーとの関係性

顧客向けの情報開示

CSR 調達セルフ・アセスメント・ツール（グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン）、Sedex、EcoVadis、CDP 等のプラットフォームを通じた情報開示を行うとともに、お取引先からのサプライヤー調査への回答を実施しています。

従業員向け環境教育

環境教育を多面的に実施して、従業員の環境意識の向上に努めています。

- ・社内イントラネットによる教育、情報提供
環境関連ページを社内イントラネット上に掲載し、「サステナビリティレポート」をはじめ環境情報を提供しています。
- ・社内環境セミナー
各事業所の環境安全委員会、教育委員会等が企画して、環境問題に関するセミナー・勉強会を開催しています。
- ・社外環境セミナー
環境安全業務に携わる者は、専門的セミナー・講演会・展示会などに参加して、環境関連知識のレベルアップに努めています。
- ・新人教育
新入社員に対する教育を各事業所において実施しています。また、従業員に対する社内セミナーにおいて、環境・安全に関する研修を実施しています。
- ・環境マネジメントシステム（ISO14001）による環境教育
深谷工場、板倉工場及び総合研究所では、ISO14001 環境マネジメントシステムの中で教育・訓練を計画的に実施しています。また、各職場では「ISO14001 掲示板」を設置して環境方針、環境推進ポスター、その他環境関連情報を掲示し、環境保全の促進に努めています。

株主への情報開示

当社 HP にてサステナビリティ（本レポート含む）に関する情報を開示しています。

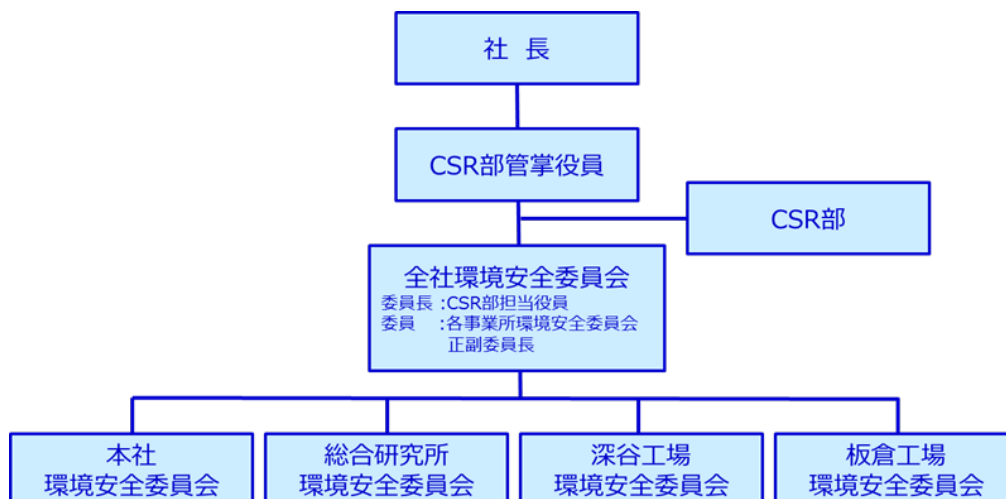
貢献を目指す SDGs



推進体制・ガバナンス

推進体制

「環境安全管理規程」に基づき環境安全管理体制を構築し、推進しています。
また、環境マネジメントシステムの国際規格 ISO14001 の認証を深谷工場・板倉工場・総合研究所で取得し、生産部門と研究部門が一体となって運用しています。



(1)全社環境安全委員会

- ①代表取締役社長が任命する CSR 部担当役員を委員長とする委員会で、環境保全及び安全対策に関する全社的な方針、活動計画などを審議・決定します。
- ②各事業所の環境安全に関する活動計画・活動実績等の報告を受け、全社的な調整を行います。
- ③環境安全監査（環境保全 / 保安防災 / 労働安全衛生）の監査員を選任し、各事業所で毎年監査を実施します。

(2)各事業所環境安全委員会

- ①本社、総合研究所、深谷工場及び板倉工場に、それぞれ環境安全委員会を設置し、事業所長などを委員長として、毎月開催しています。
- ②それぞれが具体的な活動方針・目標を定めて、環境及び安全に関する活動を推進しています。

(3)CSR 部

- ①CSR・SDGs に関する基本施策の立案・推進を行っています。
- ②長谷川香料の環境安全活動について総括管理を行っています。
- ③全社環境安全委員会及び環境安全監査などを事務局として計画・運営しています。
- ④サステナビリティレポートや当社 HP 等を通じて関連情報を開示しています。

(4)ISO14001

2001 年に深谷工場及び板倉工場において、一般財団法人日本規格協会より環境マネジメントシステム ISO14001 の認証を取得し、活動してきました。なお、現在の認証機関は DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社となっています。また、生産部門は、当社の中でも特に環境負荷の大きい部門ですが、両工場が歩調を合わせて、ISO14001 のシステムに基づき、PDCA サイクルを回して継続的改善に取り組んでいます。また、2012 年 6 月には、総合研究所を認証登録範囲に加え、研究開発段階から環境負荷軽減への取り組みを強化しています。

「ISO14001 環境方針」

長谷川香料株式会社深谷事業所、総合研究所は食品香料、化粧品香料、合成香料、食品添加物、食品および化粧品素材などの生産・研究開発を行う総合香料メーカーとして環境との調和の重要性を認識し、社会に信頼される企業を目指します。この実現のため、以下の方針に基づき環境に関する活動を実施していきます。

- ①省資源、省エネルギーを推進し、地球環境の保護に努めます。
- ②廃棄物の削減及びリサイクルを推進します。
- ③適用サイト及び周辺の環境管理を強化し、汚染の予防に努め、地域社会との共生を図ります。
- ④環境に関する大気、水質等の法律、協定を順守します。
- ⑤内部監査等を行い、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- ⑥環境教育を行い、全従業員の環境に関する意識の向上に努めます。

ガバナンス

各事業所において環境安全監査を毎年実施しています。その結果を戦略会議で報告することを環境安全管理規程で定めています。また、ISO14001 の認証を取得している生産部門・研究部門では、外部審査機関による定期維持監査を受け、これらの定期的な監査により環境管理システムが有効に機能しているかを確認し、改善を図っています。

全社環境安全委員会による環境安全監査

1997 年から全社環境安全委員会が、環境保全と安全対策に関する監査を実施してきました。2008 年以降、監査内容を「環境保全監査」「保安防災監査」及び「労働安全衛生監査」に区分し、きめ細かくチェックする仕組みに変更しました。監査に際しては、それぞれ専門的な監査員を選任し、監査員は環境に関わる法令の遵守、活動の状況、関連施設管理状況等をチェックし、改善すべき事項には改善指摘書を発行します。これに対し被監査事業所では、指摘事項に対する改善計画を作成し、全社環境安全委員会に報告した上で改善を実施していきます。2021 年度は 8 月に新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、各事業所においてそれぞれ監査を実施し、全社環境安全委員会で審議後、戦略会議へ報告しました。

ISO14001 定期維持審査と内部環境監査

環境マネジメントシステム ISO14001 の認証を取得している深谷工場・板倉工場・総合研究所では、外部審査機関 DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社の定期維持審査を受け、システムの定着・運用を確認している一方、部門内においても環境マニュアルで規定され登録・承認された内部環境監査員により内部環境監査を実施しています。

当社の中でも特に環境負荷の大きい生産部門は、両工場が歩調を合わせて、ISO14001 のシステムに基づき、PDCA サイクルを回して運用に取り組んでいます。

指摘や改善推奨事項が示された場合には迅速に是正対応し、継続的な改善を図っています。

リスク・機会と戦略・対応

リスク

- ・ 法令・規制遵守徹底の不備による行政処分や訴訟
- ・ 地域社会の環境保全の阻害
- ・ 社会的評価の低下
- ・ 顧客からの取引停止等
- ・ 気候変動による原材料の不作
- ・ 災害等によるサプライチェーンの寸断

機会

- ・ 気候変動によって生じる社会的ニーズへの対応

戦略

- ・ 法令遵守やリスクへの対応を徹底します。
- ・ CSR 方針に則り、環境課題を解決し、成長戦略へとつなげていきます。

リスクへの対応

- ・ 戦略会議における長期視点での目標検討・決定と全社環境安全委員会での施策の進捗管理、グループ全体への啓蒙
- ・ 地球温暖化対策の徹底（環境安全委員会活動を通じたエネルギー消費量・CO₂の削減、原料等の省資源、廃棄物の堆肥化を通じた有効利用）
- ・ CSR 調達セルフ・アセスメント・ツール（グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン）、Sedex、EcoVadis、CDP 等のプラットフォームに加盟、情報開示の実施と透明性の維持

機会への対応

- ・ 情報開示、トレーサビリティの担保による顧客との取引拡大
- ・ イノベーションの加速、SDGs の目標の実現に向けた新製品の開発・提案、販売

- ・炭酸感増強香料（炭酸エンハンサー®）、天然光劣化防止剤等の使用で、ペットボトルの薄肉化や軽量化により容器原材料の省資源化に貢献

TCFD への取り組み

TCFD 提言へ 2022 年 3 月に賛同を表明しました。

現在、当社にとっての気候変動のリスク、機会とそれらが及ぼす影響を見極め、対応策を開示すべく、準備しています。

世界が脱炭素化社会の実現に向けて取り組みを加速する中、当社も気候変動問題に対して積極的に取り組んでいきます。

ガバナンス

- ・ 戦略会議で議論を実施
- ・ 2021 年度の議題は CO₂ 排出削減に関する中期目標の策定

戦略

- ・ 初年度はリスクと機会の洗い出しを行い、開示に向けて準備開始
- ・ 今後の方針については全社環境安全委員会やサステナビリティ委員会で検討し、戦略会議にて付議していく予定

リスク管理

- ・ CSR 方針 5【リスクマネジメント】に記載のリスク管理体制、リスクの特定プロセスの中で対応

指標と目標

- ・ 全社環境安全委員会にてスコープ 1, 2 CO₂ 排出削減目標を策定
『2030 年度までに 2013 年度比 46% 削減』
- ・ 全社環境安全委員会にて進捗管理し、データを開示
(参照：(3) 環境目標と実績 (2021 年度))
- ・ CDP サプライチェーンプログラムを用いたスコープ 3 CO₂ 排出量の把握

2021 年度の主な取り組み

(1)環境会計

環境保全活動を効率的かつ効果的に進めていくために、環境省の「環境会計ガイドライン」を参考にし、環境会計を実施しました。(参照：ESG データブック 2022)

(2)環境負荷軽減に向けた取り組み

・エネルギー使用

当社は省エネルギーを重要な課題として捉え、積極的に取り組んでいます。全社的な省エネルギー活動を実施するほか、生産部門の全ボイラーを効率の良い機種に更新するとともに、特別高圧受変電設備や、エネルギー監視システムを導入するなど省エネルギーを推進してきました。省エネ法の第一種エネルギー管理指定工場である深谷工場及び板倉工場では、エネルギー使用の合理化基準を定め、省エネルギーに努めています。

2021年度は製造工程の改良、蒸気の有効活用による蒸気ロスの削減、ボイラー運転の効率化を実施することで、エネルギー使用量を前期比5.39千GJ削減し、エネルギー原単位は0.6%改善しましたが、目標値-1.8%を達成することができませんでした。これからも、効果的な施策を実施してエネルギー使用量の削減に努めます。(参照：ESGデータブック2022)

省エネ法定期報告書

事業者クラス分け評価制度にて2015年度~2020年度まで6年連続" S"クラス評価を獲得

省エネ法定期報告書 / 事業者クラス分け評価制度とは、経済産業省が定期報告書を提出する全ての事業者を S・A・B・C の 4 段階にクラス分けし評価、同省の HP で公表する制度です。当社は 2020 年度報告/2019 年度実績まで、エネルギー原単位の過去 5 年の平均の変化が 99.0%となり、省エネ法で定められているエネルギー原単位年平均 1 %以上の改善を達成しておりました。

2015 年度に初めて S クラスを獲得し、以降 2020 年度報告分まで 6 年連続で S クラス評価を維持することができました。

今後も全社環境安全委員会が中心となり、省エネ施策を立案し、生産部門を中心にエネルギー効率のよい新型設備への切り替えや、エネルギー設備の運用状況の監視、改善を実施してまいります。また、生産部門と研究部門のコラボレーションによる製造工程の改良等から省エネを実現できるよう、全社一丸となってエネルギー対策の PDCA サイクルを展開し、このような高い評価を再び獲得できるように、今後もさらなる省エネ対策を実施してまいります。

・CO₂排出

2021年度も引き続き効率的な生産活動を行い、エネルギー使用量を大幅に削減できました。その結果、スコープ1、2排出量は前期比3.7%削減、また2013年度（18,814 t）を基準年とする2030年度までの46%削減目標に対して、2013年度比20.6%削減となりました。

また、スコープ3排出量について、算出可能なカテゴリより算出を開始しました。今後はCO₂排出量算定について第三者検証を受けることで、環境負荷の実態把握を一層進めるとともに、長期的なCO₂排出量の削減に取り組んでまいります。（参照：ESGデータブック2022）

・用水使用

当社は、用水を製造水以外にも冷却及び洗浄用として使用しています。これまで製造方法の改善による冷却水の削減、洗浄方法の改善や冷却水循環式設備の増設などで用水使用の削減に努めてきました。2021年度は、用水使用量442,776m³と前期比4.5%削減しました。限りある水資源を有効に利用し、今後も用水使用の削減に努めます。現時点の当社生産エリアでの水リスクは高くないと認識していますが、今後も継続してチェックし、適切に対応できるようにしてまいります。（参照：ESGデータブック2022）

・廃棄物の有効利用

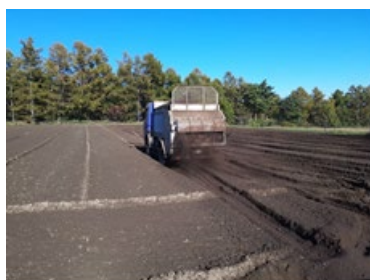
当社は多品種の香料製品を製造しており、その製造に伴い、様々な廃棄物が発生します。この廃棄物の有効利用に取り組むとともに、廃缶類、紙類、廃ガラス、廃油等の再資源化を積極的に推進しています。また、埋立廃棄物の発生抑制に努めてまいりました。

契約するにあたり、引き取り業者を見学し、適正に処理が行われているか確認、定期的に監査を実施しています。また、廃棄物は排出者責任があるため、環境安全監査にて年に一度状況確認を行い、全社で情報を共有し、さらに指摘事項は速やかに是正を行っています。

有害廃棄物も廃棄物業者で処理しているため、マニフェストで管理しています。処分されなかったものはないと把握しています。

2021年度は、廃棄物量は前年比0.4%減少、廃棄物の有効利用率は97.6%でした。また埋立廃棄物は深谷工場にて台風で破損したスレート瓦（アスベスト含有）を埋立処理したため、ゼロ目標は達成できませんでした。（参照：ESGデータブック2022）

また、当社では、特に天然物抽出後の残渣（植物性残渣）が廃棄物として多量に発生します。この植物性残渣は、長野県南佐久郡小海町にて、長谷川香料（出資比率45%）及び廃棄物運搬会社とで出資している堆肥製造会社の株式会社小海コンポースで発酵堆肥化された後、高原野菜農家等で利用されています。



堆肥散布（長野県小海町）



野菜畑（長野県小海町）

・臭気対策

香料を製造する企業として、臭気対策（悪臭防止）には特別に注意を払っています。様々な脱臭技術を採用した多数の脱臭装置の稼働により、臭気の排出防止に努めています。

また、臭気対策の一環として、構内及び周辺地域の環境パトロールを定期的実施しています。



脱臭設備（板倉工場）

・排水処理

1969年、深谷工場に排水処理施設を設置して以来、活性汚泥法、加圧浮上法、嫌気性処理法、凝集沈殿法、膜濾過法など様々な排水浄化技術を採用した排水処理施設を増設し、排水処理の改善に努めてきました。

各工場の排水は排水処理設備で三次処理を行い適切に処理し、研究所の排水は排水処理設備で二次処理まで行い下水へ排水しています。水質汚濁防止法、県条例及び地域との協定で定められた排水規制値等の排水基準を遵守しています。



排水処理設備（板倉工場）

・生物多様性の保全

生物多様性の保全は、社会全体で取り組むべき重要課題の一つです。香料の製造には、エネルギーや天然原料及び合成原料、水などの資源を利用しており、バリューチェーン全体で見ると生態系に何らかの影響を与えている可能性があります。

香料が貢献できるテーマの一つが「消費量の多い食資源の代替品開発と使用量削減」です。例えば、肉類、乳、砂糖、ラード、パーム、コーヒー、茶、カカオ、ナッツなど需要の増加が見込まれる食品については、加工食品中の使用量を減らしても風味を香料で補えば、嗜好度を落とすことなく生活者に届けることができます。また香料の使用は、食資源保護につながることに加え、天然の食材よりも、低価格にて安定供給することが可能です。

二つ目は、「フードロス削減」です。製剤化技術で香料を粉末化することで、香料を運ぶための容器コストと輸送コストの削減につなげるだけでなく、食品の保存性能の向上につなげることが可能です。また、炭酸感増強剤や光劣化防止剤を利用することで、ペットボトルの軽量化や食品の賞味期限の長期化に貢献しています。

今後は当社の事業性や地域性に配慮した活動を推進するとともに、事業活動と生物多様性との関係性を体系的に把握し、社内教育などを通じて生物多様性への理解を深めていけるよう努めていきます。

(3)環境目標と実績

環境目的	2021年度目標	2021年度実績	中長期目標
1.環境管理体制の充実			
1)環境マネジメントシステムの継続的改善	環境保全活動の継続的運用、改善 ISO14001(認証取得部門)の継続運用、改善	長谷川香料全部門で実施 製造・研究部門でISO14001の継続運用、改善	継続実施 継続実施
2)環境監査の実施	環境安全監査の実施 ISO14001 審査、内部環境監査の実施	環境安全監査を実施 ISO14001 認証取得部門で実施	継続実施 継続実施
3)環境安全教育の推進	各種教育の計画、実施 ISO14001 教育訓練の計画、実施	社内イントラネット教育、その他の教育を実施 ISO14001 認証取得部門で実施	継続実施 継続実施
4)環境管理の改善	サステナビリティレポートの発行 環境会計の実施	サステナビリティレポートの発行 環境会計の実施	継続的改善 内容充実
2.省エネルギーの推進			
1)エネルギー使用の削減	エネルギー原単位 対前年度1.8%削減	5.39千GJ削減(対前年度1.8%減) (生産量原単位0.6%削減→目標未達)	継続実施
2)CO ₂ 排出量の削減 (スコープ1,2)	CO ₂ 排出量 対前年度1.0%削減(総量)	575 t 削減(対前年度3.7%減) 中長期目標進捗(2013年度比20.6%削減)	2030年度までに 2013年度比46%削減
3.省資源、廃棄物の有効利用			
1)省資源の推進	水使用量 継続的改善 事務用紙使用量 継続的改善	水使用量20,872㎡削減 (対前年度4.5%減)(原単位3.4%改善) 事務用紙使用量3,508kg減 (対前年度20.4%改善)	継続的改善 継続的改善
2)廃棄物の有効利用の促進	廃棄物有効利用率 継続的改善	廃棄物有効利用率97.6%(対前年度1.0%改善)	継続実施
3)埋立処分量の削減	埋立処分量ゼロ	埋立処分量0.2 t 埋立ガラス廃棄物の有効利用化	埋立処分量ゼロ
4.環境排出の抑制			
1)大気汚染、水質汚染の防止	自主規制値による管理(工場)	自主規制値内で適正管理 排水処理施設の改修	継続的改善
2)臭気対策	脱臭設備の増設、適正管理 臭気パトロールの実施(工場、研究所)、臭気苦情ゼロ	適正運転、臭気苦情1件	継続的改善
3)化学物質管理	PRTRの実施(PTR 法及び自主管理物質)	PRTR実施	継続実施
5.グリーン購入			
1)グリーン購入の推進	グリーン購入の推進	グリーン購入基本原則・ガイドラインによる運用	継続実施

今後に向けて

- ・再生エネルギー調達を開始し、スコープ1、2の中長期的なCO₂排出量削減に取り組んでまいります。
- ・CO₂排出量第三者検証を取得し、算定方法の透明性とデータの信頼性を図っていきます。
- ・CDPサプライチェーンプログラムを通して、サプライチェーン全体のCO₂排出量の把握に努めてまいります。
- ・TCFDの提言に沿った開示を進めるべく、気候変動リスク、機会とそれらが及ぼす影響を見極め、対応策等の検討を進めてまいります。

2022年度目標	
環境保全	(1) 省エネルギーの推進 ・工場各部数値目標の月次進捗管理 ・研究・製造のコラボレーションを通じ、製造工程の改良など生産活動における省エネを推進 ・長期的な省エネ・省資源に関する設備投資の継続的な検討
	(2) 省資源・廃棄物の有効利用 ・用水使用量、事務用紙使用量削減を継続的に行う ・埋立廃棄物の排出をゼロに抑える
	(3) その他管理活動の継続実施 ・ISO14001環境マネジメントシステムを利用したエネルギー管理の徹底
数値目標	(1) エネルギー原単位 対前年1.6%削減
	(2) CO₂排出量 2013年度比25%削減（2030年度までに2013年度比46%削減）
労働安全衛生 保安防災 化学品安全	(1) 労働安全対策の推進 ・静電気対策の徹底と初期消火訓練を実施 ・特別安全巡視を深谷工場/板倉工場で実施
	(2) 防災安全対策の推進 ・総合防火訓練の実施
	(3) その他の管理活動の継続実施